

※文字の大きさは Meiryu UI / 12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3 用紙片面におさまるように作成してください。
 ※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 2】

校内研修プログラム開発・実践部門レポート/NITS 大賞エントリーシート	※事務局記入欄 受理No. : D-125
【学校名・氏名】琴浦町立聖郷小学校 田中 伸二	【応募部門】
【修了研修名】平成30年 第3回中堅教員研修	校内研修プログラム開発・実践部門

【活動名】チームで取り組む研究推進～つたえる・つながる・高め合う～

【解決すべき課題】

①児童の実態…素直で明るく、落ち着いて学習に向かえる反面、主体的に学んだり、活発に意見交流したりする態度面での意欲が低い。
 ②教員の実態…若い先生が増え、授業力の向上が課題。
 ③研究推進について…実践内容やめざす姿を、全職員で共通理解し、共通実践していく方法。

【活動内容】

①主体的に学ぶ子を育てるための取り組み
 ・自分事として考えられる資料や問いの工夫

主体的に学ぶ子を育てるために、問いが持てるような資料提示や発問を研究した。これは、社会科「水産業のさかんな地域」の学習での導入の流れである。既知の事実と矛盾する資料を提示することで、驚きとともに問いが生まれ、それを解決していく過程を通して、また新たな問いが生まれ、学習が繋がっていった。



・自由な対話を授業の中に取り入れて、学び合いの場をつくる。

様々な場面で、児童同士が自由に意見交流する場を持たせた。意見交流をすることで、自分の考えに自信もったり、間違いに気付いたり、その後の全体意見交流がより活発になった。また、悩んでいる児童に寄り添い、解決のヒントを教える姿も見られ、学級全体の学力向上にもつながった。



・ふるさと琴浦で活躍している方を中心に、教材開発をする。

ふるさと琴浦町の企業や歴史上の人物について教材開発し、実際に働いている人の姿から学ぶことで、深い学びにつながった。

養殖場の見学



②授業力向上に向けての取り組み

教員同士で模擬授業を行い、教師が児童役となって授業構成や指示、発問の工夫、対話場面の持たせ方など、意見交流しながら一緒に授業をつくっている。ベテラン教員から若手教員へ授業技術を伝えるよい場となっている。



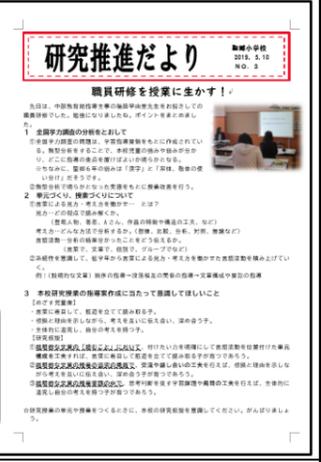
③全職員全児童で、研究推進をする取り組み
 ・授業の進め方の共通理解

4月の早い段階で、6年生が2年～5年に授業を公開した。下級生は、6年生の姿から発表の仕方、聴き方、声の大きさ、姿勢、ノートづくりなど、実際に見て学習規律の基本を学んだ。この取り組みは児童の共通理解の側面もあるが、教員の学年始めの授業の進め方の共通理解の場にもなっている。



・研究推進だよりの発行

定期的に研究推進だよりを発行し、全員で共通理解しながら進めていきたいことや最新の情報を共有するようにしている。また、研究授業の後は、授業者がたよりを発行し、自分自身の実践の振り返りや気づきを全員で共有できるようにしている。



【活動の成果】

主体的に学ぶ子を育てるために全職員で共通理解しながら、発問や資料提示について研究してきた。児童に行った社会科アンケートの結果、全ての項目で肯定的な回答が増えていたが、特に「写真などの資料を見て分かったことや疑問を見つけることが好き」や「地図帳や資料を使って調べることが好き」といった項目が大きく改善しており、主体性が伸びたと考えられる。また、対話の場を多く持つことで、授業が活性化するだけでなく、学級全体の学力が向上した。今年度の全国学力・学習状況調査の正答率は、国語科74%、算数科81%と両教科とも全国平均を大きく上回る結果となった。対話により、自分の考えに自信を持ったり、訂正したりする過程が、知識の定着をより確かなものにしたと考えられる。そして、地元琴浦町の企業や人を題材に教材開発をし、実際に工夫や努力をしておられる人の姿や声から学ぶことで、深い学びにつながるだけでなく、ふるさと琴浦を大好きになる子が増えた。

教職員の年齢構成に急激な変化が表れており、本校でも若い先生が増えている。授業力の向上は喫緊の課題であるが、模擬授業を通して授業づくりをする活動は、ベテラン教員の持っている技術を伝えるよい場となっている。そして、教員だけでなく子ども同士も授業を参観し合い学ぶ機会をつくることで、発表や聴き方の約束、姿勢やノートづくりの手本を確認することができ、全校が同じベクトルで研究を進めることができている。6年生にとっても、全校のリーダーとしての自覚を育むよい機会となっている。また、研究推進だよりを定期的に発行して最新情報を共有するだけでなく、研究授業を通しての気づきや学びを授業者に書いてもらい、全学年で授業改善につなげてもらうよう取り組んでいる。

【アピールポイント】

- ・主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくり。
- ・若手教員の授業力向上を意識したOJT体制づくり
- ・全職員、全児童で共通理解しながら行う研究体制づくり。